

篠路西中学校の実践

(1) 研究内容

アイヌ民族の方を学校に招いて行うアイヌ文化体験学習

(2) 学習活動を通して育てたい力

アイヌ民族の方の話から、歴史的な民族に対する差別的な政策や、その中でアイヌ民族の方がどのような思いを抱いてきたかを知ること、人権の大切さや私たちの身近にある差別やいじめについて考え、決してやってはいけないこととして理解し、思いやりや社会的な事柄に対する関心をもたせたい。また、アイヌ文化に触れることで異なる文化に対する偏見をなくし、ひいては個性を尊重する心も育てたい。

(3) 実践の内容

【 実践 】「アイヌ民族の方を学校に招いて行うアイヌ文化体験学習」について

○ねらい

- ・北海道の歴史の中で、アイヌ民族に関することを学び、人権に関する意識を高める。
- ・生活習慣や文化の異なる人を理解し、ひいては個性の尊重・思いやりの心を育てる。

○学習内容

- ・副読本「アイヌ民族:歴史と現在」を読み、事前の知識を蓄える。
- ・アイヌ民族の方のお話や楽器演奏、舞踊を見学し、楽器の体験を行う。



(4) 成果と課題

① 成果

- ・「アンコラチメノコウタラ」の皆さんの、子どもたちへの積極的な関わりにより、引っ込み思案な生徒も楽器に触れ、体験する場面が多くなった。
- ・2年時の宿泊学習における「白老 ポロトコタン」見学の意欲付けになった。
- ・異文化や個性の異なる人の存在とそれらに対する生徒の意識が高まったことが事後の作文からよく分かった。

② 課題

- ・事前の予備知識や動機付けが総合や道徳等でもっとなされていれば、より生徒が積極的に取り組めたと思う。
- ・体験的なことが一部の生徒しかできず、残念であった。ムックリの製作などを行って、全員が楽器を持っているとまた違ったと思われる。